

## 「電気柵管理のチェックポイント」利用にあたって

福島県農業総合センター企画経営部

- ・ 現在、鳥獣害対策は『環境整備』、『個体数調整』、『被害防除』の3つの柱を基本として現地で実施されている。中でも、『被害防除』の主要な手段の1つとなっているのが電気柵の設置であり、国の鳥獣被害防止総合対策事業では集団で電気柵などの防護柵を自力施行する場合資材費購入費を定額補助（ほぼ満額助成）する内容となっている。本年度は多くの市町村で本事業を活用して電気柵の設置を進めており、このほかにも中山間直払事業、農地・水保全事業、市町村単事業などを活用した電気柵の設置・管理が進められている。
- ・ 電気柵は『心理柵』であり、動物が柵線に触れて「痛い！」と感じる学習効果により侵入を防止する柵であることから、獣種に合わせた正しい設置とメンテナンスを行わなければ、電気柵の効果が発揮されない。これまで設置された電気柵の設置状況、被害地域の現地巡回から柵の設置方法が適正でない事例が認められたことから、獣害対策に携わる関係者への情報提供により電気柵の防除効果を一層発揮させるため、別紙のチェックポイントを作成し、現地において設置ミス防止やメンテナンスに活用していただくこととした。

### ○現地における失敗事例



写真1 失敗事例（1）

ワイヤーの位置が高すぎる（イノシシ対策なら地面から20cm、40cm）



写真2 失敗事例(2)  
支柱につけられた罫子がすべて逆向き

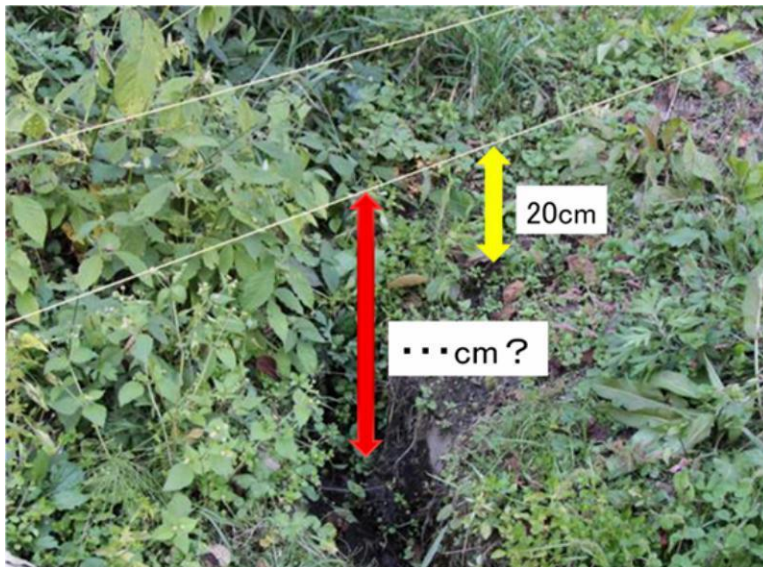


写真3 失敗事例(3)  
水抜きの堀に対策を加えなかった(ワイヤーを垂らすなど)

- チェックリストの裏面にイラストを用い、どんな点をチェックすればいいのかを初めての方でも理解しやすい資料としている。

# 電気柵管理のチェックポイント【ツキノワグマ編】

農業総合センター企画経営部

電気柵を設置して、「もう大丈夫だ！！」と気を抜いていませんか？  
きちんと管理しないと『ただの紐』になりかねません。鳥獣はちゃ～んと見ていて、  
私たちの油断したところについて侵入していきます。  
日頃の管理で電気柵の効果を保ちましょう！！



\* 管理されていなかったものに×をつけましょう

	点検ポイント	チェック
1	畑の周りは草刈りがされているか？	
2	畑の周りに生ごみや収穫残さが捨てられていないか？	
3	電気柵のワイヤーに雑草が触れていないか？	
4	碍子がすべて畑の外側を向いているか？	
5	ワイヤーは地面から20、40、60cmの高さを保っているか？	
6	水路、水田の水抜き溝など不用意に開いていないか？	
7	支柱が抜けたり倒れたりしていないか？	
8	ワイヤーが弛んだり、地面についていないか？	
9	パチッ、パチッと音のするところはないか？	
10	電圧は低下していないか？	

## 1～3に×がある

畑の外周が雑草に覆われたままだとクマ達は身を隠しやすく、収穫残さなどが捨てられていれば餌も容易に得られるため畑の周りから離れません。また、ワイヤーに雑草や枝などが触れてしまうと、そこから漏電してしまい正常な電圧を保つことができなくなります。

畑は周りも含めていつもすっきりと。農作業もしやすくなります。

## 4～8に×がある

せっかく取り付けした電気柵も、設置の仕方を間違えていては効果が得られません。また、他の動物が侵入した際にずれた支柱やワイヤーをそのままにしておくと、そこからクマ達が侵入してしまいます。

気の緩みが命取り。過信しすぎず、こまめに支柱やワイヤーの点検をしましょう。

## 9・10に×がある

パチッ、パチッと音がするのは草や支柱などに放電している合図です。アースが地中深くまで埋められていない場合にも、地面から放電するため音がします。放電していれば電圧が下がり、侵入の原因となります。常に4,000V以上は保てるようにしましょう。バッテリー（電池）切れの場合、電圧の低下はもちろんですが、電牧器自体が作動しなくなります。電牧器のバッテリー残量にも気配りを。

